

代表からのご挨拶

サンライズ・メイト・バート株式会社
代表取締役 井上 明美



いつも皆様方には、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。梅雨入りも間近になりましたが皆さまお元気にお過ごしでしょうか。私どもも、毎日のコロナ感染のニュースに一喜一憂しているこの頃です。新型と名前が付くよう

にウイルスが進化している以上、私たちも新しい生活スタイルへと進化しなければウイルスに勝てないと考え始めております。世界の合言葉「スティホーム」今こそ、日本民族特有の秩序を思い出し一人一人が力を合わせ打ち勝ちましょう。五月晴れの空のように、皆様のお気持ちが晴れやかでありますようお祈り申し上げます。

サンライズの物語



命の危機に瀕しても諦めない

復活の物語

その方は私がケアマネに成りたての新人の頃に出会った方でした。以前は薬剤師に従事しておりキャリアウーマンだったそうです。

骨折、脳梗塞、水頭症、嚥下障害等の数々の病気が襲ってきましたが、その度に、驚くような回復をしてきた人です。骨折をした時も医師からは歩行は困難と診断されても歩き出したのです。

不謹慎ですが娘さんと顔を見合わせて「凄い回復力ですね」と大笑いした事が懐かしく思い出されます。

介護していた娘さんも意識が高く、一時オムツ交換になっても娘さんがトイレへ誘導して排泄を何度も試みて綿ショーツにパットに変えたのです。車椅子からベットへの移乗時も自身で行い、日記を書いたり、計算をしたりと根気強く関わられておりました。

何度も命の危機に瀕しても諦めずにお母様と向き合った姿は並大抵の努力ではなかったと思います。娘さんの口癖は「私はチャレンジャーなのよ」でした。

今回4月半ばから血中酸素も低下し始め意識が途切れたりしていましたが今までの復活劇を信じていた私や娘さんは望みを捨てる事ができませんでした。そんな状態で迎えた、母の日孫や娘さん達に見守れる中旅立ってしまったのです。最後まで一緒に歌を口ずさんでいたとのことでした。人生の最期をどう迎えるか・・・素敵な幸せな時だったのではないかと考えます。

お一人お一人の人生に関われる介護職を誇りに思います。

サンライズのデイサービス陽光だより

【介護職員】
小川 拓郎



サンライズのデイサービス陽光の介護職員の小川です。
よろしくお祈いします！

【血液型O型】



井上から
エール！

経験が豊富で傾聴能力に長けており
利用者様に対して柔和な対応をされております。
今後の活躍に期待が持てる方です。

介護に役立つ書籍紹介

健康以下、介護未満 親のトリセツ

著：カータン

体に不自由が出てきたけど、ガッツリ介護が必要というレベルではない…
そんな“健康以下、介護未満”な両親との付き合い方をお教えます。
思わず笑っちゃうけど、不思議とジ〜ンときちゃう、そしてためにもなる。
すべての人に存在する「実家」というコミュニティ。
いつかはやって来る両親の老い。
どんな家族も「あるある」と共感できるネタが満載です。



NEWS 今月のニュース

大町の有志が

フェースガード作り

医療・介護の現場支援へ

大町市民有志が、新型コロナウイルスと向き合う医療や介護の現場を支援しようと、感染予防のフェースガードを製作している。まずは七日に千個を病院などに贈る。

まちづくりを手掛けるNPO法人「ぐるったネットワーク大町」が中心となり、「医療介護従事者応援キャンペーン」として実施。二日は、NPOのメンバーら七人

が市内で完成品の仕分け作業にあたった。

NPOの理事長が歯科医師であることから、現場で必要な物品を作ろうと企画。市民が一緒になって活動し、感染拡大の影響でギスギスしがちな雰囲気や和らげたい狙いもある。

フェースガードはラミネートフィルムに応援メッセージを入れて貼り合わせ、ゴムバンドやスポンジを取り付けて製作。これまでに少なくとも四十の個人・団体が協力した。

寄贈は七日の分を含めて四千個

を予定。大北地域の総合病院や医師会、薬剤師会などのほか、同地域の五市町村でつくる北アルプス広域連合を通じて老人ホームなどにも贈る。それとは別に中信地域向けにも千四百個を作り、五月中に届ける。



<中日新聞
2020年5月6日(水)>

広報誌「ライジング・サン」のバックナンバーは、弊社ホームページでもご覧いただけます。

ぜひお立ち寄り下さいませ。 <http://www.samaba.jp/back-number/>